

## インターバンクの声（2017年3月29日）

トランプ大統領が米医療保険制度改革(オバマケア)見直し法案を撤回させた影響は簡単には収まりそうもなく、とりわけ米政権の経済政策の実現に対して懐疑的な見方が広がり始めたことが大きい。

ニューヨーク市場の朝方は、アジア市場の終盤では底固かった米金利がわずかながら低下し始め、米国株の寄り付きが軟調だったことでドル円は再び110円10銭台まで円買いが進んだ。いよいよ110円割れ相場入りかとも思われたが、3月の米コンファレンスボード消費者信頼感指数が市場予想を大きく上回ったためか、米長期金利や米国株が上昇に転じたことでドルも反発、ニューヨークの午後2時過ぎには111円台前半までドル買いが進んだ。

ただ、さらにドル買いが進むかどうかは微妙なところで、週足・雲の上限が111円40銭辺りにあり、110円台でドルを買った人たちの利食いの売りオーダーも同じ水準前後に並んでいるらしい。その水準を越えることが出来れば再び112-115円レンジに戻る可能性も高まるが、残念ながらバイアスはまだ円高方向に傾いたままらしい。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。